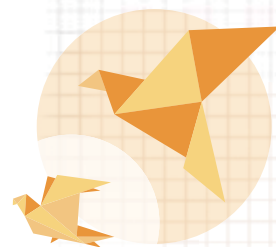


世界へ、そして 未来へはばたく



書「夢」

本市では、都城市を対外的にPRしていくため、みやこんじょ大使の「ぼんちくん」を活用した都城市PR事業や、「肉と焼酎のまち・都城」推進事業などと併せて、都城市PRロゴ作成事業などに取り組んでいます。今回は、なぜ今、PRの取り組みが必要なのか、得られる効果は何かを特集します。

◎問い合わせ

総合政策課 ☎23-2115

今、求められるPRの取り組み

PR事業に取り組み、全国の人や企業に「都城」の名前を知ってもらうことで、①「都城に行ってみたい」「都城に住んでみたい」といった市外の人たちのニーズを

呼び起こすことにつながります。

また、認知度の向上は、②都産の農畜産物の販売や③観光客誘致、④企業誘致などの面でも、さまざまな効果を及ぼすことができます。

PRロゴの役割

本年度のPR事業のメインと言っても過言ではない「都城市PRロゴ作成事業」。全国1,741市町村（26年4月現在）の中から、本市が注目を集めるために、まずは「都城」という名前を知ってもらうことが大切です。

市では、PRロゴの作成を、新進気鋭の著名な書家「紫舟^{シシフネ}」さんに依頼。紫舟さんの卓越した技法とアイデアで、魅力あふれる本市のPRロゴがこの夏、誕生します。

PRロゴ作成の担い手「紫舟」さん

紫舟さんは、「書」を中心に書画や立体的な造形などを幅広く手掛け、全く新しい手法で日本の思想や伝統、文化を世界に発信し高い評価を受けています。

これまでに発表した作品は、伊勢神宮第62回式年遷宮^{せんぐう}「祝御遷宮」やNHK大河ドラマ「龍馬伝^{りょうまでん}」ほか多数です。



都城市PRロゴ発表式典

くはっしん みやこんじょ力く

本市をこれまで以上に対外的にPRするため紫舟さんに作成を依頼した、PRロゴの発表式典を開催。また、今後のPRの在り方や効果的な進め方について、マーケティングコンサルティングサルタントも招いて池田市長が熱く議論します。

●日時 7月24日(木) 14時開場

●場所 総合文化ホール

●式典の内容

①PRロゴの発表

②就任式 紫舟さんへ都城PRアドバイザーを委嘱します

③パフォーマンス 紫舟さんが「都城の未来(仮題)」をテーマに書を実演します

④トークセッション(出演者)

紫舟さん、西川りゅうじんさん(マーケティングコンサルティングサルタント)、池田市長

●入場料 無料 ※整理券が必要

●整理券の配布場所 総合政策課、各総合支所地域振興課、各地区市民センター ※数に制限あり



命と暮らしを守る道



都城市と鹿児島県志布志市を結ぶ地域高規格道路・都城志布志道路の早期全線開通を目指す「都城志布志道路整備・活用促進大会」が5月30日、都城市総合文化ホールで開催されました。今回の特集では全線開通に向けて気運が高まった大会の内容をお伝えします。
 ◎問い合わせ 都市計画課 ☎23-2762

早期全線開通に向け期待高まる

地域高規格道路・都城志布志道路は、平成6年に計画路線の指定を受けました。延長約44キロのうち、平成24年3月までに約13・4キロが暫定2車線で供用開始され、梅北IC（インターチェンジ）から諏訪山ICまでの区間が、平成29年度に供用開始される予定です。また、今年の4月には、平塚ICから南横市IC区間の平成30年度の供用開始予定が公表されました。一日も早い全線開通が望まれています。

整備・活用促進大会

大会では、国土交通省九州地方整備局道路部長による基調講演や、「防災の道」「経済の道」「医療の道」と題し、地域を代表して3人が意見発表しました。

古川禎久財務副大臣は「地方は厳しい時代。しかし、一丸となってスピーディーに意思決定し、行動に移すことが大事。都城志布志道路が全線開通したその日に、力を合わせてよかったと喜びを分かち合えるよう頑張ろう」と参加者に呼び掛けました。

また、整備に必要な財源確保や事業区間の早期供用開始を求める決議を採択しました。

道路を取りまく最近の話題



国土交通省九州地方整備局道路部 部長
 喜安 和秀氏

九州地方は、自動車産業が盛んで、南九州にも関連工場や半導体産業など、多くの企業が立地しています。また、南九州は肉用牛や豚などの畜産業が盛んであるとともに、温泉やジオパークなどの観光資源にも恵まれています。

製造業や農林水産業、観光業などの振興の面で、また、安全・安心なライフラインの構築を図る上でも、地域高規格道路・都城志布志道路の完成に期待が高まります。発生が懸念される南海トラフ地震では、都城市には人や物資の集積拠点となり、沿岸部を支援する役割を期待しています。

都城志布志道路は、国が整備する区間のうち、平塚から南横市間について、4月25日に、平成30年度開通予定を新たに公表しました。今後、宮崎県、鹿児島県と連携し、一日も早い開通を目指します。

■南海トラフ巨大地震の沿岸部への影響とバックアップ拠点



防災の道

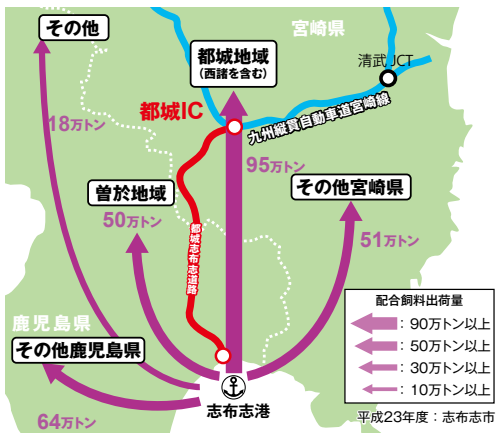


NPO法人宮崎県防災ネットワーク
都城支部
ひらい いずみ
平井 泉 さん

東日本大震災では、内陸部の都市は、沿岸被災地の後方支援拠点として大きな役割を果たしました。都城市は、2つの港と空港に近く、また多くの病院や陸上自衛隊基地もあり、後方支援の拠点としての機能を有しています。

地域高規格道路都城志布志道路が開通すれば、沿岸被災地のラインとなり、南九州の防災の道として重要な役割を果たすことができます。

■志布志港からの配合飼料の輸送状況



経済の道

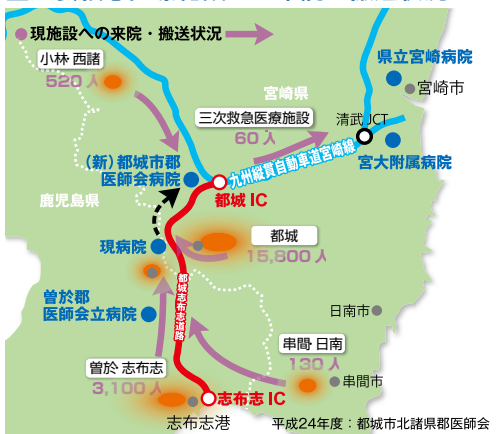


都城地区木材青年会
ひろいけ なおみ
廣池 直美 さん

都城ICと志布志港間を30分短縮できる都城志布志道路には、輸送コストの低減を期待しています。この道路を活用して志布志港から家畜飼料などを輸送すれば、6次産業化に必要な原材料や販売先確保の面で効果を発揮できます。

都城や曾於地域などでは、今後東アジアへの木材輸出量の倍増を目標にしています。木材輸出に重要な港と結ぶことで輸送の利便性向上とコスト削減が期待できます。

■主要救急医療施設への来院・搬送状況



医療の道



都城市郡医師会病院
なかつる なつたつ
中津留 邦展 さん

都城地域健康医療ゾーン整備事業に基づき、医師会病院や救急医療センター、都城健康サービスセンターが来春、太郎坊町に移転します。この道路が全線開通することで、より利便性が増し、救急搬送にかかる時間は短縮します。

現在、遠隔地での救急搬送時には救急隊と共に医師が同乗するドクターカーが出勤しています。この道路の全線開通により、「命をつなぐ道」が完成します。



「はよしゅくいやん」早期全線開通を訴える缶バッジが完成しました。希望する人は都市計画課まで問い合せください。なお数に限りがあります。

